

宇部市にぎわい エコまち計画

・・・低炭素まちづくり・・・

－概要版－

多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換

エネルギー利用のスマート化

市の顔としての中心市街地の魅力向上



平成 27 年 3 月

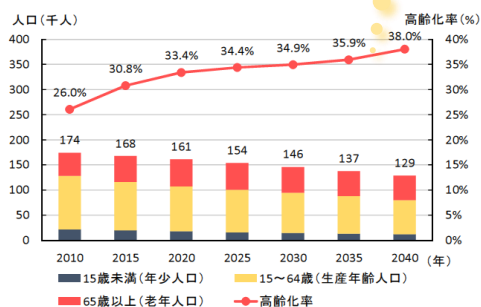
宇部市

2 宇部市の現状と課題

宇部市の主な現状

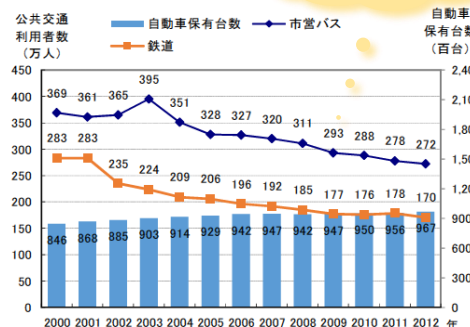
本市の主な現状として、人口減少・高齢化が加速しており、今後市民税の減少や民生費の増加が懸念されます。また、自動車に依存する割合が高く、公共交通機関の利用者数は減少傾向にあります。公共施設の維持補修費は、施設の老朽化に伴い増加傾向にあります。

今後ますます
人口減少・高齢化が加速



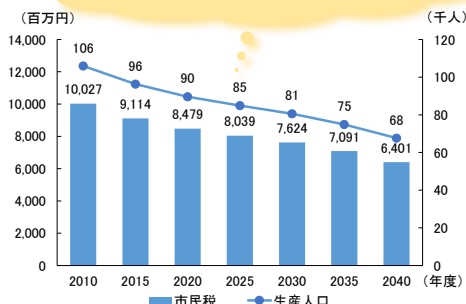
出典：国立社会保障・人口問題研究所
＜将来人口の推移＞

公共交通が衰退



出典：宇部市統計書 山口県統計年鑑
＜自動車保有台数と公共交通利用者数の推移＞

人口減少に伴う市民税の減少



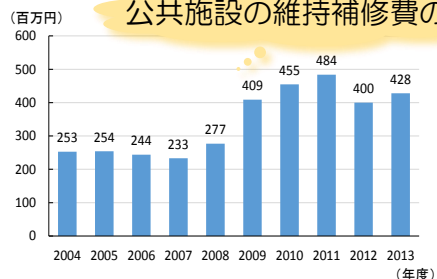
※宇部市資料、将来人口推計結果をもとに推計
＜市民税の将来推移＞

高齢化に伴う民生費の増加



出典：決算の概要（各年）
＜民生費の推移＞

公共施設の維持補修費の増加



出典：宇部市公共施設マネジメント指針
＜普通会計における公共施設等の維持補修費の推移＞

宇部市の課題

本市の現状を踏まえ、宇部市では次の課題が挙げられます。

- 人口減少・高齢化や公共施設の維持補修費の増加等に伴い、財政状況が悪化する中、市民サービス機能の維持等に向けて、これまでの都市構造を転換し、効率的なまちづくりを行う必要があります。
- 本市も含めた大きな社会的課題である地球温暖化への対応に向けて、限りある資源を効率的に利用したまちづくりを行う必要があります。
- 市の顔として機能すべき中心市街地については、本市のにぎわいをけん引する魅力の向上に向けて、先導的にまちづくりを行う必要があります。

3 宇部市がめざす「にぎわいエコまちづくり」

本市では、まちづくりにおいて、地球に優しい暮らしや少子高齢社会における暮らしなど、課題解決に向けた新しい視点を盛り込み、魅力的で利便性の高い、にぎわいのある持続可能なまちづくりを進めるために、「宇部市にぎわいエコまち計画」を策定します。

この計画では、都市拠点、地域拠点、地域コミュニティ核を結ぶ公共交通を軸とし、それぞれの拠点や地域コミュニティ核が機能を補完しあう「多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換」、限りあるエネルギーを効率的に利用する「エネルギー利用のスマート化」、中心市街地の魅力を高める「市の顔としての中心市街地の魅力向上」をまちづくりの方向とし、住民と民間企業、大学、行政が一体となって、中心市街地の活性化と合わせた環境負荷の少ない「にぎわいエコまちづくり」をめざします。

【まちづくりの方向】

多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換

- 1) 地域コミュニティ核として日常生活に必要なサービス機能は小学校区を基本に維持する
- 2) 拠点として利用頻度の高い場所等に広域的な都市機能を集積する
- 3) 地域コミュニティ核と拠点間を鉄道やバスなどの公共交通で結ぶ
- 4) 拠点や地域コミュニティ核の周辺、公共交通の軸沿線に居住を誘導する

エネルギー利用のスマート化

- 1) 地域のエネルギーを管理するスマートコミュニティ事業を展開する
- 2) 再生可能エネルギーの導入を推進する

市の顔としての中心市街地の魅力向上

- 1) 中心市街地のにぎわい創出を図る
- 2) 緑と花と彫刻による顔づくりを推進する

【メリット】

地域コミュニティの維持

拠点・核における生活利便性の維持・向上

サービス機能の維持

都市経営コスト増大を抑制

にぎわいの創出

不動産価値の上昇

環境負荷の低減

公共交通の維持

市民の健康維持

エネルギーの効率的な利用

再生可能エネルギーの確保

みどりの保全・創出

良好な景観創出

中心市街地の活性化

<宇部市がめざす「にぎわいエコまちづくり」>

4 宇部市がめざす多極ネットワーク型コンパクトシティ

都市拠点、地域拠点、地域コミュニティ核間を鉄道やバスなどの公共交通で結び、それぞれの地域コミュニティ核や拠点ごとにコンパクトなまちづくり（多極ネットワーク型コンパクトシティ）を推進します。

また、地域コミュニティ核などで不足する日常生活に必要なサービスは、広域的利用に対応した拠点や他の地域コミュニティ核で補完します。

長期的には、都市拠点、地域拠点、地域コミュニティ核周辺および公共交通の軸周辺に居住誘導を図っていきませんが、自然環境の良い郊外部や農村部への居住を制限するのではなく、ライフスタイルに応じて市民が居住する場所を選択できるようにします。

＜各拠点及び核の市民生活における利用イメージ＞

名称	市民生活における利用イメージ
■都市拠点	市民に対して多様なサービス（行政、商業、医療、福祉、子育て支援、文化施設）を提供し、市外に対しても市の顔として市の魅力を伝える拠点。他の地域拠点や地域コミュニティ核からのアクセスが可能で、交通結節点がある。県外への玄関口となる山口宇部空港へのアクセス性が高い。
■地域拠点	複数の小学校区を包含した地域で都市拠点と互いに補完し合いながら、市民に対して多様なサービス（商業、医療、福祉）を提供する地域。近隣の地域コミュニティ核よりも集客性のある機能を有する。
■地域コミュニティ核	小学校区を基本に、日常生活において必要とされる身近なサービス（行政、医療、福祉）を提供するとともに、コミュニティ活動の中心となる地域。都市拠点や地域拠点とのアクセスが可能で、近隣の核の補完的な役割も担う。

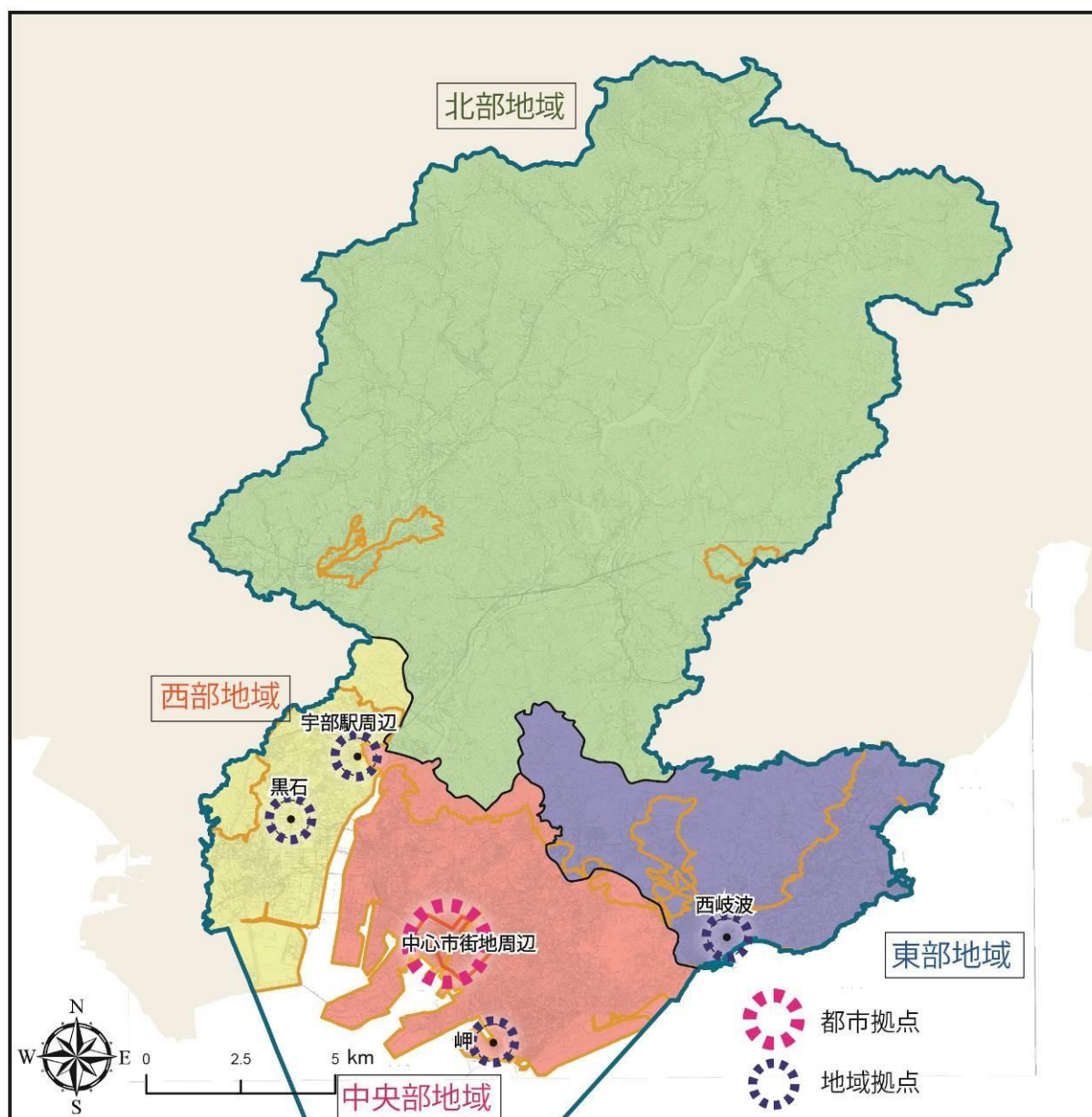


＜多極ネットワーク型コンパクトシティ(イメージ)＞

5 都市機能を集約（維持・誘導）する拠点

計画区域内から拠点候補地を抽出し、人口密度、都市機能（商業、医療、高齢者福祉、子育て支援、レクリエーション、教育、文化、行政）の立地状況、公共交通の運行本数により評価した結果、**都市拠点を中心市街地周辺、地域拠点を宇部駅周辺、黒石、岬、西岐波**に選定しました。

なお、都市機能集積等の評価を行う範囲については、“歩いて暮らせるまちづくり”の実現に向けた拠点評価であることを踏まえ、徒歩圏内の半径 800m 程度の範囲としました。



※地域コミュニティ核については、都市計画マスタープランで全市的な視点から検討する予定です。

＜拠点の位置図＞

6 公共交通の軸

拠点、核をつなぎ、将来的に一定の運行本数が確保されるバス交通ネットワーク及び鉄道（JR）を、「公共交通軸」と位置付けます。

7 宇部市がめざす将来の都市像

まちづくりの方向に沿って、「にぎわいエコまち計画」では、将来像を「みんなでつくる にぎわいエコまち宇部」とし、下記の4つの取組について基本方針を掲げ、具体的な施策を民間投資を促しながら推進します。

将来像： みんなでつくる にぎわいエコまち宇部

取組1 都市機能の集約化

(基本方針) 多様な機能が集まった、歩いて暮らせるまちづくり

施 策

- 拠点や地域コミュニティ核への医療・福祉・商業・教育などの都市機能の誘導や、既存の日常サービス機能の維持を図る
- 利便性の高い拠点や地域コミュニティ核、公共交通軸周辺へ居住を誘導する
- 安全で快適な都市空間を創出する

取組2 公共交通の利用促進

(基本方針) 公共交通など、便利でエコな移動ができるまちづくり

施 策

- 拠点や地域コミュニティ核間の移動を支える公共交通ネットワークの確保を図る
- 公共交通の利便性の向上・利用促進により、自動車から環境負荷の少ない公共交通手段への転換を図る
- 自家用車等の次世代自動車導入などにより環境負荷の低減を図る

取組3 建築物の省エネ化、エネルギーの効率的利用

(基本方針) 地球にやさしく、賢くエネルギーを利用できるまちづくり

施 策

- 建築物への省エネ性能の高い機器や設備の導入、省エネ性能の高い建築物への建替えなどにより建築物の低炭素化を図る
- 住宅、事業所における太陽光エネルギーの活用や、公共施設への再生可能エネルギーの導入を推進する
- 地域のエネルギーを総合的に管理し、エネルギーを創り、蓄え、賢く使うスマートコミュニティ事業の展開を図る

取組4 みどりの保全・創出

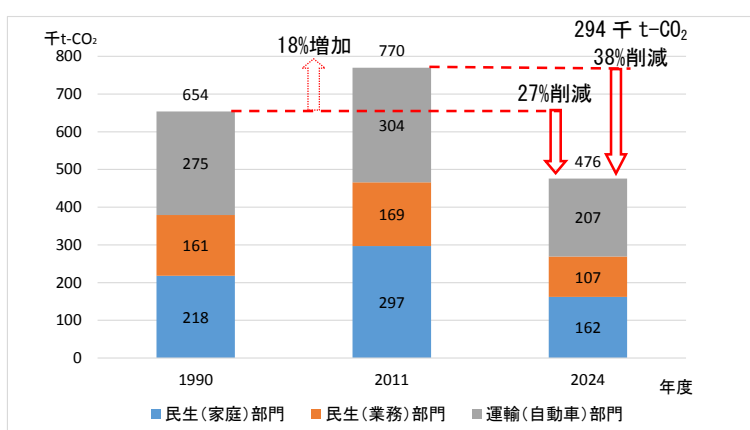
(基本方針) 緑・花・彫刻など、うるおいが感じられるまちづくり

施 策

- ヒートアイランド現象の抑制や、市街地内のオープンスペースや公共施設等への緑化の推進、二酸化炭素吸収源としての緑地の保全を図る
- 市街地において、緑と花と彫刻による宇部市の顔づくりを推進する

8 宇部市にぎわいエコまち計画における二酸化炭素削減目標

本計画では、都市構造、交通、エネルギー、みどりの各分野の施策の実施により、**短期(2024年度)に294千t-CO₂削減(2011年度比38%削減)**することを目標とします。なお、中期目標(2034年度)については、現段階では目標設定を行わず、今後、国のエネルギー情勢を踏まえて設定します。



＜宇部市にぎわいエコまち計画の二酸化炭素削減目標＞

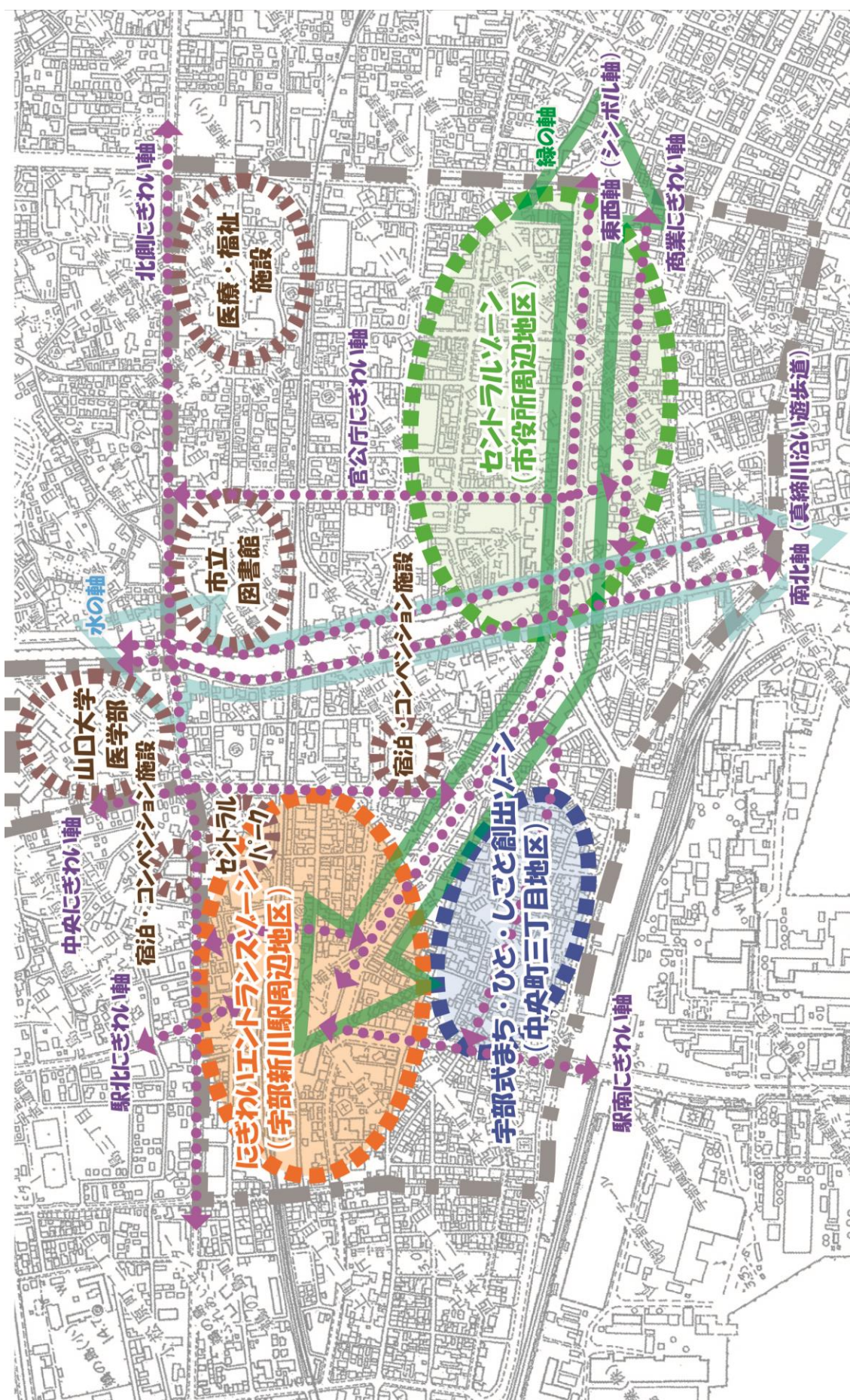
9 中心市街地のにぎわい創出（総合的整備計画）

「市役所周辺地区」「宇部新川駅周辺地区」「中央町三丁目地区」の将来像と整備方針を以下に示します。

＜各地区の将来像と整備方針＞

ゾーン	将来像	整備方針
■にぎわいエントランスゾーン (宇部新川駅周辺地区)	市の玄関口としての魅力ある機能や空間がまちに人を誘い、多くの交流や文化・経済活動が行われ、にぎわいが生まれている。スマートコミュニティ化により、エコなまちになっている。	1) 玄関口としての「魅力ある空間」 2) 利便性・快適性の高い「にぎわいのある都市拠点」 3) 利用しやすい「広域からの交通結節点」
■セントラルゾーン (市役所周辺地区)	複合的な機能、優れた環境性能を持つ新市庁舎の整備やスマートコミュニティ化によるエコなまちづくりが、周辺の業務・商業施設の再整備を促し、利用者が快適に過ごしている。水と緑豊かな市役所周辺において、多くの人が潤いを感じながら交流している。	1) まちの中心としての「シンボル性のある機能」 2) 水と緑が感じられる「潤いのある空間」
■宇部式まち・ひと・しごと創出ゾーン (中央町三丁目地区)	宇部新川駅との近接性を活かし、多様な世代が利用する便利な職住や生活支援機能がそろうとともに、スマートコミュニティ化により、エコな宇部のまちなか居住のライフスタイルが確立している。	1) 中心市街地ならではの「利便性の高い居住空間」 2) 日常生活を支える「便利な生活支援機能」 3) 若者を呼び込む「カルチャー・創業機能」

「市の顔としての中心市街地の魅力向上」を図るため、これまで蓄積された都市施設などのポテンシャルを活かし、都市拠点である中心市街地の再生に向けて「市役所周辺地区」「宇部新川駅周辺地区」「中央町三丁目地区」を重点整備地区と位置付け、これら3地区を連携させた**総合的整備計画**として、公民連携による整備を先導的に進め、にぎわい創出を図ります。



＜3地区の役割分担と連携のイメージ＞



宇部市にぎわいエコまち計画
－概要版－

宇部市土木建築部 都市政策推進課
〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号
TEL : 0836-34-8465 FAX : 0836-22-6050